

ささぐり校歌考

わたしたちは、音楽と切つても切り離せない生活を送っています。生まれたときから子守歌に接し、成長するにつれてさまざまな歌に出合います。

その中でも小学校や中学校などでは、入学したときから卒業する日まで接し続ける一つの曲があります。それが「校歌」です。

校歌は、『広辞苑（第四版）』によると「学校で、建学の理想をうたい、校風を発揚するために制定した歌」とあります。学校によつては校歌がないところや、校歌のほかに「生徒会の歌」、「応援歌」などがあるところもあります。しかし卒業式などの重要な行事のフィナーレを飾ることや同窓会などで歌われることなどから考えてみると、学校の中心となる曲はやはり校歌ではないでしょうか。わたしたちが通った学校の校歌を口ずさんでみると、校歌の歌詞には、ある共通した特徴があることがわかります。それは、第一は、その学校が所在する地域の自然や景観を、第二は、その学校の訓辞や理想の生徒像を織り込んでいることです。

町内の小中学校にも、それぞれ校歌があります。第一の特徴について見てみると、篠栗中では「若杉」、「金出」、篠栗北中では「若杉山」、篠栗小では「牧尾 鉾立 米の山」、「金出川」、勢門小・北勢門小では「若杉山」、「多々良川」が登場します。共通して若杉山と多々良川を意識していることがわかります。なお、篠栗小にある「金出（金井手）」は、多々良川の堰を鉄で作った意味を持つ言葉です。

第二の学校の訓辞や理想の生徒像については割愛しますが、旧の校歌を見ていると、気になる歌詞に気がきます。

はるかに臨む玄海の
空に瞬く夕星や
流れも清き多々良川
稔る田畑の豊なる
地下には無限の富有て
幸にみなぎるわが健児

これは、旧勢門中（現在の篠栗中）の校歌の二番です。この中の地下にある「無限の富」とはなんでしょう。その答えは、勢門小の「勢門の子どもの歌」の三番にあります。

みのるたんぼと その下の
お国をおこす 黒ダイヤ
それにもまして 子宝僕等
強い身体と 心意気
勢門のこどもだ
手をとって
希望の丘へ さあいこう

地下にある「黒ダイヤ」と聞いて、ピンとくる方もいると思います。「黒ダイヤ」とは石炭のことです。石炭は、近代から戦後にかけて、日本を支えたエネルギーの中心を担っていました。昭和30年代までは、篠栗町には石炭産業があり、「日本を支えているんだ」という思いが「お国をおこす」という言葉から伝わってきます（もつとも、石炭よりも子どもたちがもつと大事な宝であるとも読めますが……）。

このように校歌は、その学校や地域が意識している場所や歴史などを知ることができる重要な情報を持っています。あなたの学校の校歌はいかがですか。

町文化財専門委員

久野 隆志